

# 入野小学校 校長室だより

2014. 6. 27(金) No. 12 文責：芝

## 昼間の長さとお陽の動きと

この前の土曜日は“夏至”でしたね。私たちは、今、一年中で一番明るい時期を過ごしています。

週明けの月曜日の生活朝会で「土曜日が夏至だったことを知っていたか」を子どもたちに聞いてみたところ、「知っていた」と手を挙げた人は3～4人くらいでした。そうですね。クリスマスやお正月のように、夏至は子どもたちに具体的な影響を及ぼさないので認知度は低いのだと思います。

昼の一番長い日が夏至で、一番短い日が冬至で、そんな「日の長さ」をもとに昔の人は季節の移り変わりを知った、それは種まきなどの時期を知るのに必要だった…、と朝会で話しながら子どもたちの様子を見ていて、『子どもたちの興味からは遠い話になっているなあ…』と感じてしまいました。そこで、

「時計の針は（右回りを示して）この回り。

理由がある。どうして分かる？」

と、話題を変えてみました。『もしかしたら、高学年は知っているかも…』と見込みながら話してみたのですが、意外にも話に反応して勢いよく手が上がったのは低学年から。そして、彼が言う時計が右回りの理由は、

「時計に番号が1, 2, 3…と書いてあるから、その順番で動いている。」

とのこと。聞いたとき、『うわあ、これはすごい！』と思いました。本当にすばらしい答えです。マルをつけるとしたら、特大の『花マル』をかき、その横に最高の称賛の一言を添えたい気持ちです。

以前、お餅になぜカビが生えるかという話題の時に、科学に関心のないお年寄りが、

「簡単なことだ。早く食わないからだ。」

と答えて皆を唖らせた話も、ふと頭にうかんできました。

こんな「番号順に動いているから」という明快な答えの後に「実は…」という話はできません。別の理由があることをほのめかして私の話を終えたのですが、この回答のインパクトの大きさのため、この数日の間に何人もの人に紹介したことでした。

その生活朝会が終わり、教室への移動が始まった時、6年生の1人が、「太陽の動きからやろう？」と伝えに来てくれました。「実は…」と話したかったのは「その通り」で、日時計からきています。その6年生は「北半球・南半球」のことも話題にしていたから、ずいぶん詳しく知っている様子。さすが高学年になると、知識は量・質ともすごい面を見せてくれます。

## どうすれば丈夫になるの？

保健委員会と給食委員会が協力して「骨を強くする会」を開いてくれました。内容は劇とクイズ。下は〇×クイズで「〇を選び全員正解」の写真。その前の劇も子どもたちから大きな笑い声が出るなど、大いに楽しませてもらいながら学習が出来ました。委員さんに、「どのくらい練習した？」と問うと、答えは1ヶ月だったり、2週間だったり…。でも、「頑張ったよ」の気持ちは同じだったことでしょう。お疲れ様でした。

